

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：32639

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2017

課題番号：25870742

研究課題名(和文) 日常の「かわいい」演技の束縛と逸脱をめぐる研究 演劇教育とジェンダーの影響

研究課題名(英文) Study on how daily "Kawaii" behavior influence the theatre acting-looking at gender issues in theatre education-

研究代表者

松村 悠実子 (MATSUMURA, Yumiko)

玉川大学・芸術学部・非常勤講師

研究者番号：70647239

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：大学教育における専門科目としての「演技の授業」における「演技」と「ジェンダー」について「隠れたカリキュラム」をキーワードに考察した。発見及び結論：(1)日本において新しい研究領域であること(2)「演技の授業」で発見できる「隠れたカリキュラム」とその解決案(3)「演技の授業」における「ジェンダー」を考えることは、学士力の育成と関係があること(4)ジェンダーを考えていくことは、若者達が未来の演劇人として舞台上、舞台裏で輝くためにどのような教育を今必要としているかを考えることであること(5)「演技の授業」だけに限った問題ではなく他分野の授業にも当てはめて考えられるということ。

研究成果の概要(英文)：This research was aimed to find out and solve gender issues in acting classes at the university level by looking at the hidden curriculum. The results are (1)This is new research field in Japan. (2) Finding out the hidden curriculum in acting classes and its solution(3) Looking at gender issues in acting class has a meaning when we think about Gakushiryoku. (4) Consider the gender issues now is to make sure the youngsters, no matter their gender identities, will be able to work happily at theatre industry in the future. (5) The results can apply not only for acting classes but also for the other subjects as well.

研究分野：演技

キーワード：演技 演劇教育 大学教育 ジェンダー 隠れたカリキュラム

## 1. 研究開始当初の背景

大学教育における専門科目としての「演技の授業」(これ以降、「演技の授業」は大学教育における専門科目としての意とする)において、以下の疑問が研究の発端である。

(1) 学生達は、本当に思い切り体を動かすことが出来ているのだろうか。

(2) 表現の仕方に規制があるのではないかとすると、何故なのだろうか。特に女性は、ステレオタイプの「女性」らしさに分類される表現を逸脱しない範囲内で演じられているのではないかと？

以上の疑問を踏まえ、

(1) 演技をする際、「女性」というジェンダーを内包したまま、演劇のキャラクターを演じるという、言わば演技の二重構造が存在するのではないかと。

という推論を導き出し、授業において演技をする際、ジェンダーがどう影響するのかを研究するため、以下の目的を定めた。

## 2. 研究の目的

本研究は、大学教育において「舞台芸術」の専門科目として「演技(実技)」を学ぶ際、ジェンダーがどのように「演技」に反映するのかを、ジェンダー論と演技方法論の二つの視点を組み合わせて考察することとした。特に現代日本の若い女性に見られる「かわいい」というアイデンティティと、日常生活で演じられる自身の「キャラ」を備えた身体が、「舞台演技」という更なる「キャラクター」の演技を要求された時、内包されたそれらのジェンダー意識がどのように「舞台演技」に影響するのかを考察し、それをもって以下を明らかにすることを最終目的と設定した。

(1) 「社会的役割(ジェンダー)」と「舞台上の役割」といった「演技の二重性」に着目し、その構造を明らかにする。

(2) その結果を踏まえ、「演技」を用いた教育を行う際に注意すべきジェンダー的視点についての問題提起を行う。

しかしながら、本研究を遂行するにあたり、研究当初は、演技方法論を用いての考察、及び実際の演技を分析しようと考え、特に「コメディ・デラルテ」の演技構造との比較を念頭に描いていたが、研究を開始し、このように演技をプラクティカルに分析する以前に、「演技の二重構造」が授業内で起こる原因と背景をまず究明することが最終目的の(2)を達成するためにまずは必要であると軌道修正した。

## 3. 研究の方法

### (1) 先行研究分析

文献・論文・映像データの収集

キーワードを、「演劇」「演技」「フェミニズム」「ジェンダー」「教育」「大学教育」「演

劇教育」「ダンス教育」「コメディ・デラルテ」を主に、それら単体及び複合した文献及び論文等、映像 DVD を収集し、考察した。

### (2) 調査アンケート

「演技と日常生活における「キャラクター」意識に関するアンケート調査」という、プレアンケートを大学生を対象に実施した。

過去5年間に専門科目としての演技の授業又は、演劇公演の演出を担当し、演技指導をしたことのある大学教員6名に「演技の授業」に関する記入式のアンケート調査を実施した。

### (3) <インタビュー調査>

過去5年間に専門科目としての演技の授業を担当したことのある大学教員2名に「演技の授業」に関するインタビュー調査を実施した。

### (4) <研究会での発表及び意見交換>

平成25年度に、研究会を開催。発表及び討論会を行う。

研究会名：自己表現研究会～日常から舞台まで～

テーマ：キャラクター

発表タイトル：「ジェンダー」という「キャラ」について

討論テーマ：発表をうけて-「キャラ」と「キャラクター」について

平成29年度に、「学際研究会」にて本研究のまとめとなる発表をし、その後、ディスカッションをおこなった。

発表タイトル：日常の「かわいい」演技の束縛と逸脱をめぐる研究 - 演劇教育とジェンダーの影響 -

## 4. 研究成果

以下の6点が今回の研究成果である。

### (1) 新しい学際的研究領域であること

以下の図1のように、この度の研究課題である「演劇・演技」「教育(特に大学教育)」「ジェンダー」の三分野をまたいだ学際的研究はまだ日本では見当たらないという現状、つまり、演劇教育の中でも演技とジェンダーに特化した研究がなされていないことが明らかになり、本研究は新しい学際的研究領域であるということを明らかにした。図2は、本研究のキーワードである。

図1. 本研究の見取り図

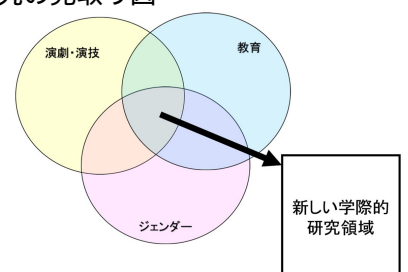
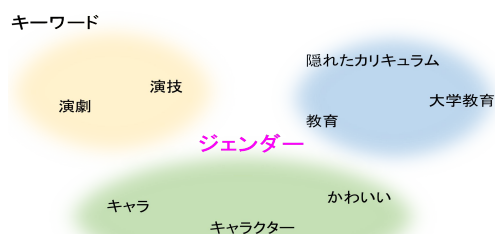


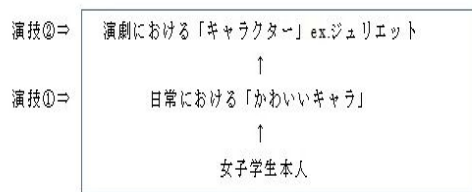
図 2. 本研究のキーワード



(2) 「キャラ」と「キャラクター」という二重構造

伊藤 (2005) の「キャラ」と「キャラクター」の定義、「ジェンダー」と「キャラ」の関係 (中西, 2013a) らをもとに、演技の授業においては、図 3 が示すような「演技の二重構造」が生じていることを指摘した。

図 3. 演技の二重構造



(3) 二重構造の発生の理由と原因については、教員から指示された演技の内容を中西の指摘する「望ましい」ジェンダー規範内で (中西, 2013b) 行おうとしている、つまりジェンダーを背負ったまま演技をしていることが背景にあることを導き出した。

(4) 演劇 (演技) 教育におけるジェンダー的視点の導入の意義

結論 (2) (3) 及び、アンケート調査の結果から、演技の授業においてジェンダーが学生たちの演技に影響していることが明らかになり、授業を行う上でジェンダーを考える必要性を明らかにした。

授業改善の一つとなることという点において、「演劇はこういうものだから」「戯曲はこう書いてあるから」と「専門性」を盾に、教室の中で指導をする上で見過ごされてきたジェンダーバイアスについて、まず、問い、ジェンダーや性を扱うが故に、教員としてどのようなことを考慮していくべきか、また教員自身が気づいていないバイアスが存在しているのではないかという視点を持つことで授業を見直すことが出来るとした。

今回の研究対象である演技の授業は、「大学教育」という枠組みにおける授業であるという点を考慮すると、「ジェンダー的視点」で考察するということは、論理的思考力や問題解決力という学士力の育成にもつながるという点を明らかにした。

今回、ジェンダーフリーの考え方と演劇の考え方の共通点を見つけた。それは、「演劇」の社会に対して様々な角度からの視点や、そこに存在する人々を描き出し、メッセージを発信していくという側面はジェンダーフリーの視点 (稲邑, 2001) と共通点があり、演劇を学ぶ上で知っておくべき視点であることを、海外の大学の授業例を挙げ、示した。

(5) 「演技の授業」に潜む「隠れたカリキュラム」

結論 (1) ~ (4) 受け、「隠れたカリキュラム」をキーワードに「演技の授業」にどのような「隠れたカリキュラム」があるのか先行研究、アンケート調査、インタビュー調査を組み合わせながら、以下を導き出した。

学生達の身体と隠れたカリキュラム

演技の授業は、身体を多く使うことから、大学入学以前に、同じく身体を使った授業である体育の授業でどのような隠れたカリキュラムがあり、それらが「演技の授業」にも影響及び引き続き当てはまるのかを考察し、演技のプラクティカルな側面からの隠れたカリキュラムを指摘した。

「戯曲」に関する「隠れたカリキュラム」

演技の授業において「教科書」と位置づけられる「戯曲」の選定に関して、他の分野における「教科書」の「隠れたカリキュラム」の例を挙げ、「戯曲」に応用し、具体例を挙げ、検証した。

教員の中に潜む「隠れたカリキュラム」

で挙げられたことを授業改善にいかすには、授業をおこなう教員がどう実行していくべきかを以下 4 点示した。

- ・大学以前の教育との関連性を視野に入れて授業を行う。
- ・学生が背負っている「ジェンダー」に気づく。
- ・大学以前での「ジェンダー」における教育現場の試みを知る。
- ・カリキュラム作成に「ジェンダー」の視点を加える。

(6) 研究当初は想定していなく新しく導き出された結論

以下、研究を進めるうちに、研究当初には想定していなかったこの研究の「意義」と「可能性」を以下 2 点、導くことが出来た。

「演技の授業」における「ジェンダー」を考えるということは、女性、男性、そして様々なジェンダーアイデンティティーを持つ若者が未来の演劇人として舞台上、舞台裏で輝くためにどのような教育を今必要としているか、考える事である。

「ジェンダー」という視点で、授業を見直すことは、決して規制をするものではなく、授業及び学生の学びをより深くするためであり、また単に「専門知識」「専門技術」に留まらず、「複眼的に」捉え、そこに「問題」を見出し、自ら問い、そして答えを探すとい

う学士力に含まれる能力の育成である。よって、今回の研究は「演技の授業」に限ったことではなく、大学教育における他の分野の授業にも応用して考えていくことが出来る。

#### <今後の展望>

当初抱いていた演技の二重構造のブラクティカルな分析及び、コメディ・デラートの演技構造との比較について、意見交換をする段階まで到達することが出来たため、今後は実際の演技技術や演技法をジェンダーとの関係に焦点を充て、研究を続け、更に演技の授業の改善・発展に注力していきたい。

#### <参考文献>

伊藤 剛『テヅカ イズ デッド ひらかれたマンガ表現論へ』NTT 出版、2005 年、94-97 頁

中西祐子「演じられるジェンダー」千田有紀、中西祐子、青山薫 著『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013a 年、115 頁。

中西祐子「かくれたカリキュラム」千田有紀、中西祐子、青山薫 著『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013b 年、95 頁。

稲邑 恭子「ジェンダーフリーと『男女共同参画』～2 年間の活動を振り返って」ジェンダーに敏感な学習を考える会(編)『ジェンダーセンシティブからジェンダーフリーへ ジェンダーに敏感な体験学習 -』すずさわ書店、2001 年、100 104 頁。

#### 5. 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計 3 件)

松村悠実子、大学における専門科目としての「演技の授業」と「ジェンダー」- 隠れたカリキュラムを考える -、玉川大学芸術学部研究紀要芸術研究 2017、査読有、9 号、2018、pp.31-40

松村悠実子、大学における専門科目としての演劇教育とジェンダー 先行研究分析とダンス教育におけるジェンダー研究との比較、玉川大学芸術学部研究紀要芸術研究 2015、査読有、7 号、2016、pp.29-40、<http://hdl.handle.net/11078/318>

松村悠実子、演技の授業におけるジェンダーの影響を考える 日常の「かわいい」キャラと演劇のキャラクターという演技の二重構造についての考察、玉川大学芸術学部研究紀要芸術研究 2013、査読有、5 号、2014、9-15、<http://hdl.handle.net/11078/150>

##### 〔学会発表〕(計 2 件)

松村悠実子、「ジェンダー」という視点からの授業の考察 授業においてジェンダーが学びにどの様に作用しているのか、2016 年度大学教育学会課題研究集会、2016 年

松村悠実子、大学での演劇教育におけるジェンダーをどう考えるか - 先行研究分析及び課題への取り組み -、2016 年度日本演劇学会全国大会、2016 年

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

松村 悠実子 (MATSUMURA, Yumiko)

玉川大学・芸術学部・客員助教

研究者番号：70647239